

2019 年度事業活動報告

大学教育委員会

担当理事 (○:委員長)

○安藤 広子 (日本赤十字秋田看護大学)

三国 久美 (北海道医療大学)、三橋 睦子 (久留米大学)

<第1回委員会>

日時: 2019年5月26日(日) 13:40~14:15

場所: 一般社団法人日本私立看護系大学協会
事務局

出席者: (理事) 安藤広子、三国久美、
三橋睦子 (敬称略) (事務局) 福島洋子

議事:

- 2019年度研修会について
 - テーマⅠ: 新任教員対象の研修会「大学新任教員のための研修会2019」
 - テーマⅡ: 中堅教員向け研修会「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」
- その他
 - 委員会の開催について
 - 2019年度事業活動計画書について

<第2回委員会>

日時: 2019年10月14日(月) 14:10~14:40

場所: 一般社団法人日本私立看護系大学協会
事務局

出席者: (理事) 安藤広子、三橋睦子 (敬称略)
(事務局) 福島洋子
三国久美理事は、台風のため欠席

議事:

- 2019年度研修会について
 - 「大学新任教員のための研修会2019(福岡)」
 - 「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」
- 2020年度研修会について
- 委員会の開催について

<第3回委員会>

日時: 2019年12月13日(金) 18:00~19:20

場所: 久留米大学 福岡サテライトキャンパス

出席者: (理事) 安藤広子、三国久美、三橋睦子
(委員) 北素子、新田純子、福井純子、
益守かづき (敬称略) (事務局) 福島洋子

議事:

- 2019年度研修会の運営について
- 2020年度事業活動計画について
 - 新任教員向け研修会(2回開催予定)
 - テーマⅡ中堅教員向け研修会
- その他

<研修会>

テーマⅠ: 新任教員対象の研修会「大学新任教員のための研修会2019(北海道)」開催

開催日時: 2019年8月9日(金) 10:20~16:00

開催場所: ACU-A(アスティ45) 研修室1606

講演1: 「看護系私立大学とは - 私学の特性と教育について -」

講師: 井部 俊子氏

(長野保健医療大学 副学長・看護学部長)

講演2: 「看護系私立大学の教員になるとは - 教員に求められる資質と効果的な教育方法について -」

講師: 小山 真理子氏

(日本赤十字広島看護大学 学長)

グループワーク

結果: 参加者59名(28校)

グループワーク参加者50名

テーマⅠ: 新任教員対象の研修会「大学新任教員のための研修会2019(福岡)」開催

日 時：2019 年 12 月 14 日(土) 10：20～16：00
 場 所：八重洲博多ビル 11 階
 講演 1：「看護系私立大学とは - 私学の特性と教育について -」

講 師：井部 俊子氏
 (長野保健医療大学 副学長・看護学部長)

講演 2：「看護系私立大学の教員になるとは - 教員に求められる資質と効果的な教育方法について -」

講 師：小山 眞理子氏
 (日本赤十字広島看護大学 学長)

グループワーク

結 果：参加者 70 名 (37 校)
 グループワーク参加者 59 名

テーマⅡ：中堅教員向け研修会「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」

日 時：2020 年 1 月 13 日(月) 10：00～16：00
 場 所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)6 階霧島

講演 1：「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの活用ポイント」

講 師：小山田 恭子氏 (聖路加国際大学 教授)

講演 2：「3 ポリシーをふまえたカリキュラム評価をどのように行うか」

講 師：山田 剛史氏 (京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授)

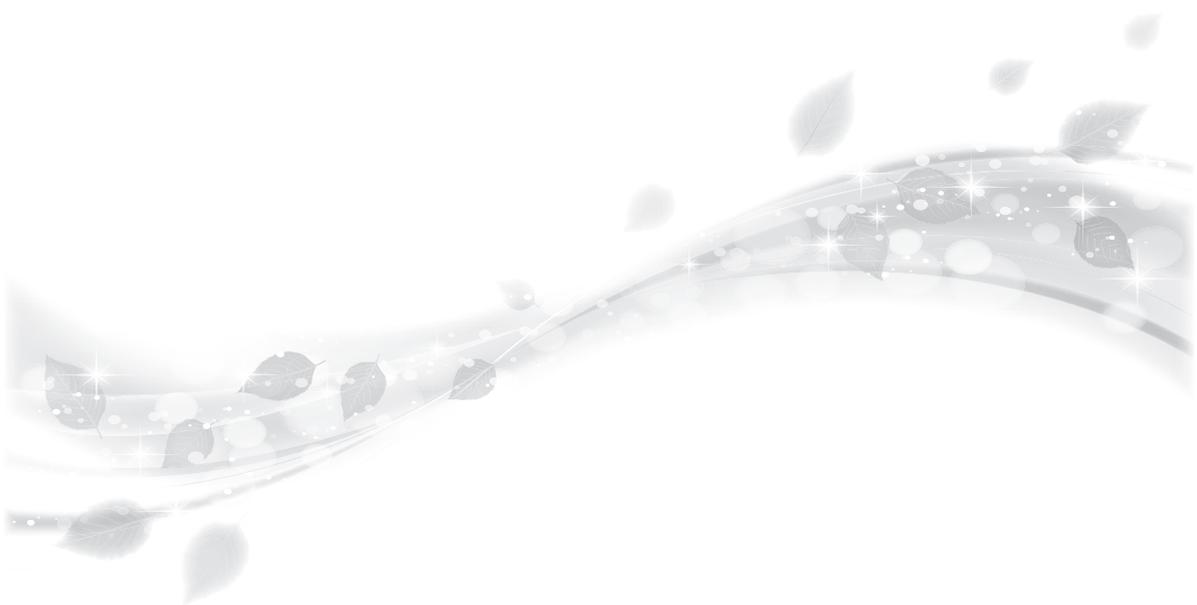
グループワーク

結 果：参加者 154 名 (76 校)
 グループワーク参加者 110 名

今後の課題

前年度からの課題：看護学教育を取り巻く社会の変化が激しい中、長期的な事業活動は具体的な計画を立てにくい状況にある。そのため事業活動計画を進めながら、あわせて情報収集し、変化を踏まえて長期計画へと発展させていきたい。本委員会の担当する事業である、大学における教育、教員の質の向上に関するものは多岐にわたり、対象とする教員の職位も新任者から管理者に至り、それぞれの対象者のニーズも多様である。今後本協会の会員校である私学の急増を踏まえ、会員校のニーズを把握して事業を企画する必要がある。

今年度中期の課題：前半期の事業活動を踏まえ、さらに看護学教育の動向を見つつ、本委員会の次年度の事業活動計画を検討する。尚、研修会開催予定地域については、早期に通知できるようにしたい。またグループワークの満足度が高く、今後も継続したい。



2019年度事業活動報告

研究活動委員会

担当理事（○：委員長） 島袋 香子（北里大学）、高見沢 恵美子（関西国際大学）、
○野並 葉子（神戸女子大学）、堀内 ふき（佐久大学）

(1) 【学術研究および学術研究体制に関する事業】

日本私立看護系大学における教育・研究の充実向上をはかるために、学術研究および学術研究体制に関する事業として、会員校からの要望に応じて2回の研究セミナー（東京・大阪）を開催した。第1回研究セミナーでは、研究助成事業に関する事業の平成27・28年度日本私立看護系大学協会助成による研究10件の成果報告会を同時に開催した。

第1回 研究セミナー

日時：2019年9月21日（土）10：00～16：00

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

プログラム

- 10：05～10：10 開会のあいさつ
- 10：10～10：20 2019年度研究助成の応募状況および選考結果の報告 島袋香子
- 10：20～ 平成27・28年度日本私立看護系大学協会助成による研究成果報告会（第1群） 座長 堀内ふき
- 12：35～13：50 平成27・28年度日本私立看護系大学協会助成による研究成果報告会（第2群）
座長 高見沢恵美子
- 14：00～15：30 講演 看護研究の目的別アプローチ「看護研究におけるエスノグラフィの意義とオリジナリティの探求」
講師：波平 恵美子氏（お茶の水女子大学名誉教授）
座長：野並 葉子



波平恵美子氏

15：30～ 閉会のあいさつ

日本私立看護系大学協会大島弓子会長からの挨拶文を野並葉子理事が代読し、第1回研究セミナーは67名の参加者を得て開催した。

第1部 平成27・28年度若手研究者研究助成による研究成果報告

- タッチパネルを使用した課題におけるリフレクション方法の違いが看護師の注視と判断に与える影響
西村 礼子（東京医療保健大学）
*採択時は東京医科大学 所属
- 爪装飾による手指細菌汚染の実態と病院感染伝播防止に関する研究
金坂 伊須萌（東邦大学看護学部）
- 脳卒中患者に対する包括的リハビリテーション旅行プログラムの評価指標開発
高井 怜（東邦大学看護学部）
- 新生児を育てる母親のハーディネスとストレス変化の関係—出産後入院中と産後1か月の継続調査—
今野 和穂（帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科）
- 下肢人工関節置換術後の高齢者の退院後早期の転倒を予防する包括的転倒予防プログラムの開発
金盛 琢也（日本赤十字豊田看護大学）
*採択時は聖路加国際大学 所属
- 妊娠糖尿病既往女性の母乳育児が糖負荷試験に与える影響
川崎 有紀（関西医科大学）
*採択時は甲南女子大学 所属
- 女性看護師の冷えと就労環境・生活環境との関連について
鈴木 みゆき（兵庫医療大学）
- 慢性疾患患者・児がいる家族を支援する看護師の家族コンコーダンス形成力の概念構築
高谷 知史（大手前大学）
*採択時は兵庫医療大学 所属
- 新生児蘇生の実践力を維持する再履修教育構築のための基礎的研究

徳永 智美 (大和大学)

* 採択時は四条啜学園大学 所属

10. プリセプター看護師の役割遂行状況に及ぼす影響要因

種本 純一 (日本赤十字北海道看護大学)

第 2 部 看護研究の目的別アプローチ

「看護研究におけるエスノグラフィーの意義とオリジナリティの探求」

講師：波平 恵美子氏(お茶の水女子大学名誉教授)

67名の参加者を得て、90分の講演ならびに質疑応答をおこなった。はじめに、波平先生はエスノグラフィーの方法論を採用すると、「エスノグラフィーマインド」を獲得できると示し、エスノグラフィーマインドがないとエスノグラフィーの方法論は難しいと考えがちな看護の研究者を励まし、さらに、手が付けられていないフィールドを対象とするので、オリジナリティの確保は容易になると勇気を与えてくれた。そのうえで、①「エスノグラフィー」の歴史とその展開、②「エスノグラフィー」の意味の拡大と多方面での採用、③「エスノグラフィー」の方法論での注意点、④看護研究におけるエスノグラフィーの意義、についてお話しいただいた。質疑応答では参加者から具体的な研究データの収集や分析などについての質問が多数だされ、丁寧に説明を加えて助言をいただき、エスノグラフィーについて理解が深まった。

アンケート結果から、約98%の参加者から今回の講演について有意義であったと回答が得られた。さらに、「エスノグラフィーの真髄、方法論、考え方に触れることができ大変面白かったです。」「文脈理解について、とても理解できた。」「とても分かりやすくよかったです。」など貴重な意見をいただいた。

第 2 回研究セミナー

看護研究の目的別アプローチ「ケア・いのち・エスノグラフィー」

講師：小田 博志氏

(北海道大学大学院文学研究院 教授)

日時：2020年2月15日(土) 14:00～16:00

場所：大阪医科大学

参加者：71名

小田先生は、先生ご自身がエスノグラフィーに導ばれていかれたように、参加者をエスノグラフィーの世界に導いていくように話をすすめた。その中には、参加者が研究を進めていくための多くのヒントが埋め込まれており、さらに参加者が多くの「問い」を思い



小田博志氏

浮かべることができた内容だった。はじめの、「質的研究とは何なのか」「フィールドワークとはなにか」という話について、研究課題「研究者はどこに関心があるのか」について、エスノグラフィーは「標準化・規格化」に抗する自由度の高い方法論であり、人間文化と自然をつなぐもの「いのち」に関心を向けていく、人々が生きている現場に近い研究であることを示した。その人々が生きている現場として、①リンゴの自然栽培の話 ②不登校の子供たちの話 ③整体の話がされた。前半を受けて後半では、研究者が「いのち」に向き合う姿勢を「いのち」とはどういうことかという「問い」のもとに、「いのち」の自発性「おのずから」動きがみられること、つながりのなかで「いのち」をとらえることを示した。その研究例として①南方熊楠と縁 ②アンデス先住民が暮らす共同体 ③徳島海部町の調査などをあげた。最後に、研究の分析では、つながりのなかでみる(文脈を理解する・生きている世界を想像する)、ことばで表現する(腑に落ちる・納得できる・フィットする・しっくりくる)などを示し、現場の「いのち」を感じとることの重要性をあげた。

アンケート結果からは、約95%の参加者から今回の講演について有意義であったと回答が得られた。具体的には、「目からウロコの話だった」「エスノグラフィーの奥深さがよくわかった」「もう少し本の内容も聞きたかった」「西日本での開催で出席しやすかった」という多数の意見をいただいた。また、参加会員校(50校)を調べた結果、参加者71名のうち教授21名、准教授10名、講師12名、助教8名、助手1名、その他2名となっており、参加者のキャリアが幅広く、今後は対象を絞った企画も検討する必要がある。

研究助成事業の応募状況と採択結果【2015（平成27）年度から2019年度】

| | 看護学研究奨励賞 | | 若手研究者研究助成 | | 国際学会発表者助成 | | 助成金総額 (千円) |
|--------------|----------|------|-----------|------|-----------|------|---------------|
| | 応募者数 | 受賞者数 | 応募者数 | 受賞者数 | 応募者数 | 受賞者数 | |
| 2015（平成27）年度 | 10 | 5 | 25 | 10 | 8 | 3 | 4,100 |
| 2016（平成28）年度 | 2 | 0 | 18 | 10 | 9 | 4 | 3,800 |
| 2017（平成29）年度 | 8 | 4 | 20 | 10 | 5 | 2 | 3,800 |
| 2018（平成30）年度 | 13 | 5 | 38 | 9 | 16 | 6 | 6,100 |
| 2019年度 | 14 | 8 | 17 | 8 | 3 | 3 | 4,832 |
| 合計 | 47 | 22 | 118 | 47 | 41 | 18 | |

看護学研究奨励賞 1件：100,000円

若手研究者研究助成 1件：300,000円（2018（平成30）年度500千円、2019年度より上限500千円）

国際学会発表者助成 1件：200,000円

(2)【研究助成事業】

2019年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表者助成の募集を4月1日～5月31日に行い、書類審査の上、6月29日に選考委員会で選考した結果を第2回定例理事会に提出、助成者を決定した。8月から助成金の交付を行い、9月21日の「研究セミナー」で研究助成の募集および選考結果の報告を行った。

若手研究者研究助成採択者（報告書提出：2019年8月31日）と平成30（2018）年度若手研究者研究助成採択者（報告書提出2020年3月31日）は報告書の提出期限が変更されたため、2020年度研究セミナーでは、両年度の採択者が研究成果報告をする。採択者は研究セミナー関東地区・関西地区いずれか所属校から近い地区で開催される研究セミナーにおいて研究成果報告をすることとなった。

(3)【会議の開催】**研究助成選考委員会**

日時：2019年6月29日（土）11時～14時

場所：日本私立看護系大学協会事務局

出席者：（理事）野並葉子、島袋香子

（選考委員）小長谷百絵（上智大学）、佐々木綾子（大阪医科大学）、高橋 泉（駒沢女子大学）、原 礼子（関西福祉大学）、三澤寿美（東北福祉大学）、森崎直子（姫路大学）、吉田久美子（高崎健康福祉大学）

欠席者：（選考委員）吉田みつ子（日本赤十字看護大学）書類審査のみ

議題：2019年度研究助成の選考

- 1) 看護学研究奨励賞 応募：14件 採択：8件
- 2) 若手研究者研究助成 応募：18件 採択：9件
- 3) 国際学会発表者助成 応募：3件 採択：3件

第1回研究活動委員会

日時：2019年9月21日（土）9：10～9：30

場所：アルカディア市ヶ谷 5階 赤城（東）

出席者：野並葉子、島袋香子、高見沢恵美子、堀内ふき

- ・研究助成の、不正への対応について検討した。
- ・研究セミナーについて、平成29（2017）年度

第2回研究活動委員会（Web会議）

日時：2020年1月17日（金）

出席者：野並葉子、島袋香子、高見沢恵美子、堀内ふき

第2回研究セミナーの打ち合わせ及び2020年度研究活動委員会事業計画について検討した。

今後の課題

- ①会員校における看護学研究者の育成のために日本私立看護系大学協会研究助成事業の整備を行う。
- ②会員校の教職員が参加しやすい研究セミナー等の開催について検討する。



研究助成応募受付中

2020 年度研究助成事業 応募締切 5 月 31 日（必着）

本協会では、会員校における看護学研究者の育成と、さらなる向上発展を奨励するため、以下の 3 つの研究助成事業を行っています。なお、1 会員校あたり各助成に 1 件応募できます。募集要項および応募書式は、本協会のホームページ (<https://www.spcnj.jp/>) からダウンロードできます。ご応募お待ちしております。

1. 看護学研究奨励賞

対 象：会員校の教員で、2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までに英文による原著論文などを、国際学術誌や学術団体誌・紀要・専門誌に公表し、看護学研究に貢献した者。ただし共同研究の場合、応募者は筆頭著者であることとします。

表 彰：賞状および副賞（10 万円）の授与

2. 若手研究者研究助成

対 象：会員校の教員で、以下の要件を満たす者として。ただし、他機関から同一論文テーマにより助成が決定している場合は対象とはなりません。

- 1) 応募時、満 45 歳以下の講師、助教及び研究者番号を有する助手。
- 2) 応募時から 2 年以上会員校に在籍する。
- 3) 研究指導者を有している。
- 4) 研究成果について本法人主催セミナーで報告できる。

研究助成：1 件 50 万円を上限とする。

研究期間：採択日から 2022 年 3 月末日まで

3. 国際学会発表助成

対 象：会員校の教員で、2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までに開催される国際学会（国外で開催）に発表を行った者及び発表予定者として。

発表助成：1 件 20 万円

発表論文の要旨に、他機関からの研究助成の有無についてご記入いただきます。また、口演・示説の別、採択通知証や学会参加証の提出が必要となります。

2019年度事業活動報告

大学運営・経営委員会

担当理事（○：委員長） 久保 かほる（埼玉医科大学短期大学）、長澤 正志（淑徳大学）、
○春山 早苗（自治医科大学）、道重 文子（大阪医科大学）

I. 研修会「私立大学等改革総合支援事業への取り組み—地域社会への貢献—」

日時：2019年10月28日（月）13：30～16：30

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）6階・霧島

参加申込者：67名（教員：57名 事務系：10名）

当日参加者：53名、参加校：33校

開催趣旨

看護系大学の急増に伴い、私立看護系大学には質の高い看護学の教育や研究を行っていくための安定かつ円滑な大学運営や経営がより一層、求められている。私立大学等改革総合支援事業は、社会の変化を見据え、自らの大学の特色・強みの明確化に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を支援するものである。本研修会では、この事業への先駆的な取り組みの実際を知り、大学経営も視野に入れた創造的かつ発展的な大学運営について考え、意見交換を行う機会とした。

プログラム

13：00～13：35 会長挨拶

日本私立看護系大学協会会長 大島 弓子

13：35～14：05 講演1「大学法人として推進する先進的地域包括ケアモデルについて」

藤田医科大学地域包括ケア中核センター地域連携教育推進センター・保健衛生学部リハビリテーション学科基礎理学療法学 都築 晃 氏

14：05～14：50 講演2「先進的地域包括ケアモデルの活動内容と課題（看護活動について）」

藤田医科大学地域包括ケア中核センター・保健衛生学部看護学科在宅看護領域 川上 友美 氏

14：50～15：00 休憩

15：00～16：00 講演3「先進的地域包括ケアモデルの活動内容と課題（行政・民間連携について）」

都築 晃 氏

16：00～16：25 質疑応答

16：25～ 閉会挨拶

日本私立看護系大学協会大学運営・経営委員会委員長 春山 早苗

<講演1>

都築氏は、私立大学経営費補助の特別補助にあたる私立大学等改革総合支援事業とその動向について紹介

された。私立大学経営費補助は一般補助も特別補助も、近年、「大学が地域における知の拠点であれ」というメッセージが発せられているとのことであった。また、藤田医科大学が、これからの医療人は医療も介護も福祉も理解しなければならないとの考えから2013年に立ち上げた、大学に所属する地域包括ケア中核センターについて紹介された。この目的は、地域包括ケアの実践、教育、地域貢献であった。さらに、補助金の獲得を目指し、自治体との連携及び大学間連携を目的とした地域連携教育推進センターを立ち上げ、5大学でプラットフォームを形成し、地域を支える人材＝地域共生社会を支える人材育成に取り組んでいた。

<講演2>

川上氏は、藤田医科大学地域包括ケア中核センターの豊明市における看護活動として、訪問看護ステーションとふじたまちかど保健室を紹介された。訪問看護ステーションは、看護師（常勤13名、兼任教員8名）、PT（常勤4名、兼任教員2名）、OT（常勤1名、兼任教員1名）で運営しており、教育の場として学生の実習も受入れている。まちかど保健室は、大学から約1kmの豊明団地の商店街に、豊明市とUR都市機構と提携して2015年に開設した。地域の人々との交流イベント、健康教育、健康・医療・介護・子育て相談を行っている。豊明団地には60名の学生が住んでおり、防災班、ウォークラリー班、寺子屋班等の10班に分かれて活動をしている。活動における課題は、地域住民のニーズへの対応、自治会や関係各所との連携、豊明団地居住学生の地域貢献活動の運営とのことであった。

<講演3>

都築氏は、地域包括ケア中核センターの活動経過を紹介された。豊明市の医療・介護資源の状況及び人口推計からみた課題を踏まえた、関係者との調整や豊明市との協働、地域の職能団体組織化支援、住民ニーズや医療介護連携に関する調査の実施・分析に基づく必要なサービスの明確化や学生・教職員が豊明団地内に居住することによるコミュニティの活性化とそれが高齢者の抱える現実の生活課題を学生が学ぶ機会となっ



都築 晃氏



川上友美氏

ていること等について述べられた。「藤田・豊明市モデル」が国のモデルとなり全国自治体へ発信され、また、地域包括ケアの推進に向けた市町村支援プログラムも開発されていた。

豊明市との連携により、多様な資源の活用による参加・外出の場の重層的な提供を市の総合事業として行い、普通の暮らしに戻す支援を皆で考え、専門職に価値観の変化を起こす場として、多職種合同カンファレンスを毎月実施しているとのことであった。

最後に、地域の民間企業の力を知り、民間企業による高齢者向けサービスの創出を自治体が支援していくという、自治体と協力して行う民間連携について述べられた。

<質問>

このような事業に取り組む際に、全学的といっても関わる教員に限られる傾向がある、教員の連携・協力体制を構築していくためにはどうしたらよいか、という質問があった。

川上氏は、学科長を始めとした教員に実際の活動の紹介や報告、困りごと等を伝えていくことが重要であると述べられた。都築氏は、専門性が異なることなどを理由に諦めている部分もあるが、学長・学部長・学科長の理解が得られていることが重要であり、大学経営的メリットを強調して伝えていと述べられた。

<まとめ>

各大学はどういう看護人材を育てたいのかを考え、それを踏まえた私立大学等改革総合支援事業への取り組みは教育の場づくりとなる。また、どの大学も同じようにはできないが、大学や大学が所在する地域の特色や強みを活かし、地域に貢献する取り組みを行うことが、大学の価値を高め、ひいては大学運営・経営の向上につながると考えられる。

Ⅱ. 「2018 年度看護系大学の教育等に関する実態調査」について

「2018 年度看護系大学の教育等に関する実態調査」を日本看護系大学協議会データベース委員会と共同で実施した。

【第 1 回合同会議】

日 時：2019 年 8 月 9 日(金) 18：15～20：00

出席者：日本看護系大学協議会（荒木田、石田、川口、佐藤、磯野、小檜山、事務局：潮、川口）
日本私立看護系大学協会（道重、春山、事務局：福島）

協議内容：1) 設問・回答欄の見直し
2) 集計業務の委託業者
3) スケジュール

【第 2 回合同会議】

日 時：2020 年 1 月 28 日(火)18：00～20：45

出席者：日本看護系大学協議会（荒木田、石田、川口、佐藤、磯野、小檜山、事務局：潮、川口）
日本私立看護系大学協会（春山、事務局：山本）
株式会社アクロス

協議内容：1) 回収状況 276 校（回収率 97.5%）
2) 集計結果の確認
3) 分析コメントの担当
4) 今後のスケジュール

2019年度事業活動報告

渉外委員会

担当理事（○：委員長）

○河口 てる子（日本赤十字北海道看護大学）

小松 浩子（慶應義塾大学）

「国家試験問題に関する調査」から「関係諸機関との連携」へ

渉外委員会は、2016年度以前には主として「国家試験問題に関する公募状況調査」を行ってきたが、日本私立看護系大学協会の組織改革の必要性が認識され、渉外委員会も2017年度からは、本来の活動である関係諸機関との連携、情報交換等を主として行うことになった。活動内容は、①本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理を行う。そのために②文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力および支援活動を企画・実施することとなり、必要時には③啓発活動のためのセミナーを実施することも目的の1つとなった。

日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、日本私立短期大学協会、日本私立大学連盟とは、特に事務部門間で頻繁な交流をはかって情報交換しているが、関係諸機関の理事長・事務局長が交代したときは、渉外委員会として訪問している。訪問時には、重要事項、最近の動向をお聞きしながら私立大学が抱える問題等について意見交換し、今後の活動協力を依頼し、相互の理解を深めている。

2019年度は、日本私立大学協会事務局および日本私立学校振興・共済事業団を訪問し、私学助成の補助金について、小規模校が多い医療系大学の中の看護学部（看護学科含む）や看護系単科大学などの補助金採択に関して、小規模校が不利になっていることを協議した。

- ・2019年10月15日（火）日本私立大学協会事務局往訪
- ・2019年11月18日（月）日本私立学校振興・共済事業団往訪

専門職大学に関して

2019年4月1日施行された専門職大学制度は、「学校教育法の一部を改正する法律」によるものであり、その背景は、我が国の経済社会状況や高等教育をめぐる

状況から、新しいタイプの人材育成の強化が急務とされ、今後の成長分野を見据え、新たに養成すべき専門職業人材は、理論に裏付けられた高度な実践力+変化に対応して、新たなモノやサービスを創り出す豊かな創造力を持ち合わせた人材を「専門職大学・専門職短期大学」として大学系への位置づけをしている。専門職大学設置基準は①入学者の多様性の確保、②教育課程の編成方針、③教育課程連携協議会、④授業科目(1)、⑤授業科目(2)、⑥授業を行う学生数、⑦卒業の要件、⑧臨地実習・連携実務演習等、⑨専任教員、⑩実務家教員、⑪研究能力を併せ有する実務家教員、⑫みなし教員、⑬教員の資格、⑭校地の面積、⑮校舎の面積の他に、学位規則の一部改正がある。また、既存の大学や短大への新機関併設も提言されている。

2019年4月にも最初の専門職大学が発足かと思われたが、複数校の設置申請はあったものの2019年4月の看護系専門職大学の開設はなかった。引き続き、2020年4月開設に向けて再申請されたが、看護系の専門職大学は認可されず、2020年4月の新設校はなかった。この専門職大学に関しては、引き続き情報収集し、広報を通して会員校に情報提供することを予定している。

看護系諸団体との情報交換、連携、関係強化

日本看護系大学協議会とは、大学情報データベース調査を共通化することから合同委員会活動などを通じて深いつながりを持つことになった。2017年度に合同委員会によりデータベース調査を実施し、2018年度には調査結果を共有し、分析している。また、日本看護系大学協議会のAPNグランドデザイン委員会では、日本私立看護系大学協会から委員を出すことになり、河口てる子委員が参画し、プライマリーケアの高度実践看護師の認定等を協議している。

2018年11月に日本看護学教育評価機構が発足し、その運営に関して本協会の協力が求められ、協会からは大島弓子会長が評議員として参画している。

【Nursing Now】キャンペーン

2020年はナイチンゲール生誕200年で、ナイチンゲールが目指した専門職としての看護、看護職の地位

向上、健康と福祉を目的に活動を世界的に展開するキャンペーン【Nursing Now】が実施されている。日本においては、日本看護協会が主体となって 30 もの看護の団体（日本看護連盟、日本助産師会、全国保健師会、日本看護系大学協議会、日本私立看護系大学協会、日本看護学校協議会、日本赤十字社医療事業推進本部看護部、国立大学病院看護部長会議、など、その他笹川保健財団、木村看護教育振興財団、厚生労働省はオブサーバー）が共同で Nursing Now キャンペーン実行委員会を組織し、2020 年 5 月 8 日・9 日の企画および関連企画を検討している。

Nursing Now キャンペーン実行委員会：

- ・2019 年 5 月 11 日（土）Nursing Now キャンペーン発足式
- ・2020 年 1 月 9 日（木）Nursing Now キャンペーン委員会
- ・2020 年 3 月 4 日（水）Nursing Now キャンペーン委員会

（新型コロナウイルス感染防止対策のため中止）

日本私立看護系大学協会は Nursing Now に賛同し、会員校に大学内外の色々な研修会・講演等の活動のパンフレットやリーフレットに、下記 Nursing Now のロゴマークをつけて、キャンペーンを盛り上げてもらうべく、会員校に Nursing Now のロゴマーク（JPG ファイル）を送付した。また、役員は、名刺に Nursing Now のロゴマーク入りシールを貼付しており、関係各所に名刺とともに Nursing Now キャンペーンを広めている。ロゴマーク入りの T シャツ等のグッズの販売も紹介している。



【Nursing Now】ロゴマーク

実習費関係について

日本看護系大学協議会と異なる日本私立看護系大学協会活動として、経営・経済的な課題に対する活動が求められている。本協会では、その課題の 1 つとして、実習費に関する問題を取り挙げている。文部科学省・厚生労働省の看護関係部署の担当者に問い合わせをしたが、両省庁での回答は難しい、あるいは所轄当外内容とのことであったが、引き続き情報収集を行っている。

他の案としては、各地域の理事が実習費について、

各地域で話し合う場をもち、金額の高騰抑制につなげる計画案がある。そのために必要な基礎データとして、日本看護系大学協議会との大学情報データベース調査の実習費分析を始めている。

私学助成の補助金獲得について

私学助成の補助金について小規模校が不利になっており、小規模校が多い医療系大学の中の看護学部（看護学科含む）や看護系単科大学などの補助金採択に関して、関係諸機関に課題の認識について情報収集している。しかし、具体的な対策となると当該機関の役員から情報収集するのは困難なため、「私学助成の補助金を獲得していくためにはどのようなことが重要か」に関して、日本私立学校振興・共済事業団職員に講演をお願いし、具体的な対策に関しては、補助金を獲得した大規模校と小規模校（単科大学）に講演をお願いすることになった。

その他の活動

その他、日本学術会議からの情報収集や厚生労働省の認知症対策に関する情報には小松浩子委員が、厚生労働省の地域医療関係や循環器・糖尿病等生活習慣病関係は河口てる子委員が情報収集を行っている。今後、高等教育を取り巻く社会環境は一層変化し、関係諸機関の情報収集、連携は重要度を増していくと考えられる。

今後の活動

- ①文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、現状への認識及び今後の方針について理事会に報告する。
- ②日本私立看護系大学協会が必要とする関係機関と関係を深め、情報交換、意見交換するとともに、連携・支援に向けた働きかけをしていく
- ③専門職大学の動向に関して情報収集し、広報や研修会を通して加盟校に情報の提供を行う
- ④実習費に対する補助、費用抑制への活動等に対する文部科学省、厚生労働省等の情報収集、および合同データベースの中の実習費分析を行う
- ⑤ナイチンゲール生誕 200 年を記念した看護界の Nursing Now キャンペーン活動
- ⑥日本看護系大学協議会と高度実践看護師のグランドデザイン委員会への参画を継続する。
- ⑦小規模校の補助金関係について、各団体の活動に関する情報収集

2019年度事業活動報告

広報委員会

担当理事（○：委員長）

○波川 京子（川崎医療福祉大学）

山口 桂子（日本福祉大学）

広報委員会の事業は、①本法人の目的の達成に寄与するため会報・その他刊行物の発行、②会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換、③本法人の活動の外部へのPRのためホームページの企画運営、④上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告などです。

会報やホームページを通して、会員校に役立つ情報の発信を担当しています。

1. 会報

会報は5月に第41号、11月に第42号を発行しました。第41号は、2018年度の委員会活動（大学教育委員会：大学新任教員と看護学実習指導・評価の研修会、研究活動委員会：質的研究セミナー2回と研究助成事業、国際交流委員会：グローバル人材育成研修会、大学運営・経営委員会：IR（Institutional Research）活用と看護系大学実態調査、渉外委員会：関係・看護系諸団体との連携、広報委員会：会報・ホームページ）の報告を掲載しています。2017年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業採択の会員校の取り組み（北海道看護科学大学「北国高齢社会の生活カウンセラーの実践」、関東学院大学「防災・減災・復興学」）を寄稿いただきました。定例的な理事会報告、事務局からのお知らせ等を載せています。

11月の第42号は、巻頭の会長挨拶、社員総会と講演会、新規会員校紹介、研究助成事業、理事会報告、役員（任期2018年7月13日から2020年社員総会まで）紹介、事務局からのお知らせを掲載しました。

総会後の講演会は、看護学教育の分野別評価が開始される中、「専門分野の教育評価機構の成り立ち、運営・活動、今後の課題について」をテーマに設定し、先行して分野別教育評価を実施している機構から3題の講演いただきました。

1題目は、6年制薬学教育の保証と教育研究活動等の改善を促進することを目的に、2008年に評価機構を設立した一般社団法人薬学教育評価機構からです。2013年から75大学の薬学部を年間10～13校を対象に7年間で評価しています。2020～2026年度の評価は、学習成果基盤学習（outcome-based education）の概念に基づいて、学生が教育を受けて何ができるようになったかを、ポイントにすることが示されました。

2題目は工学系、農学系、理学系の教育課程の審査と認定を2001年から実施している一般社団法人日本技術者教育評価機構（JABEE）からです。技術者教育の質の保証はシラバス、試験の成績（試験答案、レポート）、図書館や実験室などの設備、学内での教室会議や教授会の議事録も審査の対象にしています。審査は4つの共通基準（学習・教育到達目標の設定と公開、教育手段、学習・教育到達目標の達成、教育改善）と、認定分野の違いを補足する個別基準で実施しています。

3題目は、2012年から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の分野別評価を行っている一般社団法人リハビリテーション教育評価機構からです。2017年度から評価は2期目に入っています。指定規則改正を睨みつつ、評価内容を見直し、最低基準を満たしたから「適」ではなく、先進的な質保証、質の改善、向上に向けた取り組みを評価しています。

いずれの評価機構も書面審査と実地調査をし、結果はウェブサイト上で公表しています。

詳細は第42号に紹介しておりますので、ご覧ください。また、前号には掲載できなかった、社員総会後の上記講演に対するアンケート結果では、「満足」55%、「やや満足」40%と非常に高い満足度となっております。自由記載には「他の分野別評価機構の活動がよくわかった」「午前中の総会での審議との関連が強く、理解が深まった」「今後の看護学分野の評価を検討する上で、参考になる」などの意見が多く寄せられていました。

新規会員校紹介は、2019年度に会員校となった8校（大手前大学国際看護学部看護学科、岐阜保健大学看護学部看護学科、四天王寺看護学部看護学科、清泉女学院大学看護学部看護学科、東都大学幕張ヒューマンケア学部看護学科、長野崇徳大学看護学部看護学科、長野保健医療大学看護学部看護学科、名古屋女子大学健康科学部看護学科）から、大学学科紹介を寄稿いただきました。

会員校教員の研究を後押しする2019年度研究助成事業の、看護学研究奨励賞英文抄録8題、国際学会発表助成英文抄録3題、若手研究者研究助成8題を掲載しました。

会報バックナンバーは日本私立看護系大学協会ホームページ（<https://www.spcnj.jp/>）から委員会活動

→広報委員会→会報で、第 33 号～第 42 号を掲載しています。

2. ホームページ

ホームページは本協会と会員校を繋ぐツールです。関係団体からの情報、各委員会活動内容などを掲載しています。

- 1) 2020 年 会長年頭のご挨拶を掲載しています。
- 2) 本協会の沿革（成立ちと使命、年譜、歴代会長）を更新しました。
- 3) 会員校専用ページのトピックスで研修会、セミナーの動画を期間限定で配信しています。

①「研究セミナー」の動画配信（配信期間 2020 年 6 月 12 日まで）

日時：2020 年 2 月 15 日（土）

会場：大阪医科大学

講師：北海道大学 小田博志先生

②「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」の動画配信（配信期間 2020 年 5 月 7 日まで）

日時：2020 年 1 月 13 日（月）

会場：アルカディア市ヶ谷

講師：聖路加国際大学 小山田恭子先生
京都大学 山田剛史先生

③「私立大学等改革総合支援事業への取り組み－地域社会への貢献－」の動画配信終了

日時：2019 年 10 月 28 日（月）

会場：アルカディア市ヶ谷

講師：藤田医科大学 金田嘉清先生、
川上友美先生、都築晃先生

④「大学新任教員のための研修会 2019（北海道）」の動画配信終了

日時：2019 年 8 月 9 日（金）

会場：ACU-A（アスティ 45）

講師：日本赤十字広島看護大学 学長
小山真理子先生
長野保健医療大学 副学長・学部長
井部俊子先生

⑤「看護系大学における国際交流教育の成功に向けて」の動画配信終了

日時：2019 年 10 月 6 日（日）

会場：東京ガーデンパレス

講師：佐久大学信州短期大学部 廣橋雅子先生
聖路加国際大学 麻原きよみ先生
国際医療福祉大学 森山ますみ先生

⑥「研究セミナー」の動画配信終了

日時：2019 年 9 月 21 日（土）

会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

講師：お茶の水女子大学 名誉教授

波平恵美子先生

⑦社員総会付帯事業（講演会）の動画配信終了

日時：2019 年 7 月 12 日（金）

会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

講師：一般社団法人薬学教育評価機構

運営委員 入江徹美氏

一般社団法人日本技術者教育認定機構

専務理事 三田清文氏

一般社団法人リハビリテーション教育評価
機構 理事 陣内大輔氏

4) 2019 年 7 月から 2020 年 2 月末までの新着情報

2019.07.03：2019 年度委員会等活動計画一覧掲載

2019.07.04：2019 年度社員総会議案及び報告事項を掲載

2019.07.25：研修会「私立大学等改革総合支援事業
への取り組み－地域社会への貢献－」
申し込み開始

2019.08.14：保健師助産師看護師国家試験における
試験問題の公募について（情報提供）

2019.09.13：研修会「大学新任教員のための研修
会 2019（福岡）」申し込み開始

2019.10.04：「看護系大学に関する実態調査」について

2019.10.04：「私立看護系短期大学の教育等に関
する実態調査」について

2019.10.09：「カリキュラム構築に向けたスキル
アップを目指して」申し込み開始

2019.10.10：日本国際看護学会 2019 年度西日
本研修会のお知らせ（情報提供）

2019.10.29：「保健師助産師看護師法第 37 条の 2
第 2 項第 1 号に規定する特定行為及
び同項第 4 号に規定する特定行為研
修に関する省令の施行等について」
の一部改正について（情報提供）

2019.11.07：「研究セミナー」申し込み開始

2019.11.22：「カリキュラム構築に向けたスキル
アップを目指して」申し込み締切

2020.02.06：「カリキュラム構築に向けたスキル
アップを目指して」動画配信開始

2020.02.10：「役員選出選挙スケジュール」の概
要についてのお知らせ

2020.02.18：事務局の間合せ受付時間変更につ
いて（新型コロナウイルス対応のため）

2020.02.26：一般社団法人日本私立看護系大学協
会 役員選挙公示について

5) 委員会活動

大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、
大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会の
活動内容と 2019 年度活動計画を掲載しています。

会員校の取り組み

「オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出」の取り組み紹介

吉田久美子（大阪医科大学 看護学部 教授）

大阪市と京都の中間に位置する高槻市は、人口35万人、高齢化率28.5%（2017年）、出生率7.6（2017年）の中核市であり、今後急速に少子高齢化が進む日本の典型的な市です。

高槻市に立地する大阪医科大学では、「オーラルケア」と「ゲノム（遺伝情報）」を切り口に、「次世代オミックス医療研究拠点」を本学に設けました。行政や地元企業と連携し、本学の事業の成果として「健康増進プログラムの地域住民への展開」、「健康増進施策の行政への提言」及び「産学連携による研究成果の事業化」により、「たかつき」の健康寿命をのばし、地域活性化を活性化させるモデルづくりにチャレンジしてきました。具体的には、口腔内細菌叢の網羅的解析と口腔内細菌叢の遺伝的データと年齢や生活習慣のコホート分析による統計的アプローチ、公衆衛生課題の「見える化」と高槻市民への知の還元です。（資料1）

看護学部では、補助金の一部にて口腔内細菌等の測定機器を購入し、市民が「より健康に長生きできる方法」を学ぶ場として毎週定期的に集まれる場（カムカムサロン）を看護学部キャンパス内で開催しています。（資料2）カムカムサロンは、歓迎を意味するWelcome（ウエルカム）の「カム」と咀嚼の「噛む」をあわせて命名し、地域活性化のために健康寿命を延

ばす活動として看護学部教員により展開しています。サロンへの参加が社会とのつながりとなり、健康生活に取り組むきっかけやフレイル予防となることを目的として、2018年10月から2020年2月末までで計66

共催：大阪医科大学 / 大阪医科大学看護学実践研究センター
大阪医科大学の中の
健康づくりに興味のあるひとが
集まれる場所
come Kamusalon
カムカムサロン
いつも、いつまでもいきいきと生活するために
健康づくりを楽しく一緒にしましょう。
毎週木曜日 午後1時30分～3時30分 場所 大阪医科大学看護学部（本館北キャンパス）2階第2講義室
●看護学部教員による健康相談、健康づくりの体験や健康づくりに役立つお話しなどします。
●血圧測定や日常動作の測定、口腔内の細菌やカム（噛む）力などの測定もできます。
お気軽にお立ち寄りください。申込不要
大阪医科大学看護学部
〒565-0805 大阪府高槻市下町南1丁目
TEL: 072-484-7282（看護部） 072-484-7282（事務局）
FAX: 072-484-7282
E-mail: camusalon@nurs.okai.ac.jp

資料2 カムカムサロンのちらし



資料1 「たかつきモデル」産学連携事業

回実施し、延べ 1184 名、1 回平均 18 名の参加をいただきました。

参加者の年齢は、85 歳の方を最高齢にほとんどが 70 歳以上です。参加のきっかけは、ブランディング事業のなかで行われているシンポジウムやセミナー、インターバル速歩などに参加した人に配布されたチラシ、高槻市の広報、そして友人の誘いでした。多くの方が継続して参加され、開設以来、ほぼ毎週参加されている方が 10 名、月に 2 回参加されている方が 9 名、その他興味があるテーマの時に参加されている方がおられます。参加者の紹介により、毎月 2～3 名の新しい参加者も増えています。

内容は、オーラルケアやその他の健康に関する様々なテーマによるミニレクチャーと認知症予防体操を参加者全員に提供しています。(資料 3.4)そして、参加者個々には、健康状態を認識して健康の維持・増進のために日々生活に生かせるように、血圧測定や血管年齢測定を実施しています。さらに、誤嚥性肺炎予防のために口腔衛生状態を維持できるように口腔内細菌数の測定と加齢に伴う舌圧の低下や摂食機能の低下を予防するための舌圧検査など、簡便にできる客観的口腔機能数値評価を行っています。(資料 4)また、転倒予防のための足趾力測定や下肢筋力測定などを実施したうえで、保健指導を行っています。その結果は、参加者の記録として用紙に記入し、毎回持参していただきます。6 か月ごとのアンケートの結果において、参加してよかった内容は、口腔内細菌や口腔内機能の測定と足趾力と下肢筋力等の測定です。様々な身

体の機能評価が数値として見えることにより、参加者自身が身体の状態を知り、機能の維持及び増進に向けての動機づけになっています。特に、最近着目されているオーラルケアと口腔機能については、その機能評価と検査がどこでも受けられるわけではないため、市民の予約なしで気軽に参加できるサロンへの期待が高まっています。また、健康づくりの体操や役立つ話も好評です。要点を絞った 30 分程度のミニレクチャーは、参加者から「集中して聞くことができる。」「身近なテーマで分かりやすく役立つ。」といった感想があり、生活習慣の見直しにつながっています。その他に、ご自身の問題だけではなく、ご家族や友人の病気のことや、介護に関することなど様々なご相談に応じています。

参加されている方からは、「毎日平凡に過ごしていましたが、週 1 回の講座を受講させていただき脳の活性、認知症予防にもよく、健康に留意して過ごすようになりました。感謝感謝です。」「この会に出席することに意義があり、勉強できることに嬉しさがある。」「健康づくりの勉強をさせて頂き、他の人とのふれあいもできありがたく思います。」「カムカムサロンでは、先生が気軽に打ち解けて対応して下さい、とても嬉しく幸せ一杯！」等の声が寄せられています。参加者の方の中には、インターバル速歩への参加や事業へのボランティアとして参加され積極的に活動を広げている方もおられます。

カムカムサロンは市民の交流の場となり、健康への関心を高めて健康寿命を延ばす活動として広がっています。

2019 年度 ミニレクチャーの予定

- ◆ 参加者の知りたい、聞きたいことなどのご要望から内容を計画しています。
- ◆ 講演だけの聴講も歓迎します。
- ◆ 毎週火曜日を開催しています。いつでもお好きな時におこしください。
- ◆ 担当者の都合により内容を変更することもあります。

今後の予定

| 月 | 日 | 曜日 | テーマ |
|------|----|----|----------------------------------------------------------------------------|
| 10 月 | 8 | 火 | “軟バテ”への対処 |
| | 15 | 火 | 「幸福」と哲学 |
| | 22 | 火 | 「即位礼正殿の儀」祝日のため休会します。 |
| | 29 | 火 | 人生会議をしましょう！！ ※あなたと大切な誰かがそんな「もしものための話し合い（＝もしバテ）」をする、そのきっかけを作るためのゲームをします。 |
| 11 月 | 5 | 火 | 口の中の癌と健康 |
| | 12 | 火 | インフルエンザ予防 |
| | 19 | 火 | 体に合った履具 |
| | 26 | 火 | 足指力とは |
| 12 月 | 3 | 火 | 住み慣れた家で過ごすための支援 |
| | 10 | 火 | 冬に流行るお腫れの菌への対応 |
| | 17 | 火 | 口臭の原因と対策 |
| | 24 | 火 | リビングワイル（生前に発行される遺書） |

10 月 1 日は休会
10 月 22 日は即位礼正殿の儀(祝日)のため休会です。



資料 3 2019 年度 10 月から 12 月ミニレクチャーの内容



資料 4 ミニレクチャー風景



資料 4 口腔機能の計測

会員校の取り組み

「地域子育てプラットフォームの構築を通じた All-Win プラン」の取り組み

鎌田美智子（神戸常盤大学副学長兼保健科学部長）

工藤 達也（同 法人本部社会連携課長）

はじめに

本学は2008年にそれまでの短期大学の二つの学科が昇格し保健科学部医療検査学科と看護学科として開学した大学であります。その後短期大学部の幼児教育学科が教育学部こども教育学科として加わり、大学としては比較的新しいといえます。しかし医療検査学科・こども教育学科は短大として50年余りの歴史を有し、また学園のルーツは、明治41年の私立家政女学校の開設に始まり、すでに111周年を迎えています。現在短期大学部の口腔保健学科・同じく全国唯一の看護学科通信制課程、さらにこの4月に大学保健科学部に診療放射線学科の開設を控え、2学部4学科、短期大学部1学科・1課程という規模の大学となっております。

このたび本学は、平成29年（2017）度文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業：タイプA（社会展望型）」に選定されました。本学のルーツの始まりが、地域の人々の熱意と善意、温かい寄付等に拠っていることから、建学以来「地域と歩みを共にする大学」という精神が培われており、今回のブランディング事業の一つの背景ともなっております。

1. 平成29年（2017）度「私立大学ブランディング事業」の取り組み

（1）ブランディング事業と本学の選定

周知の通り、この事業は研究を研究者個人の学術的な側面にとどめず、大学の組織的な取り組みへと昇華させ、全学的な看板となる研究を推進すること。そして、その成果を通して大学の目指す将来的展望に向け独自性や魅力を発信するという取り組みであります。したがって個別の研究プロジェクト支援ではなく、学長のリーダーシップの下で推進される全学的な取り組みへの支援ということになります。本学は、前述の通り、平成29年度から5年間、「タイプA（社会展望型：地域の経済・社会・雇用・文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する取り組み）」に選定されました。ちなみに申請校123校、選定数は33校という状況にありました。

（2）事業概要

こどもの成長を核とするまちづくりを地域と協働して行い、対象は主に神戸市長田区としております。長田区は、貧困度が高く生活保護の人員保護率が8.31%と神戸市平均3.13%をはるかに超え全区中ワースト1位にあります。貧困度の高さは、母子家庭・共働き等の状況下で、家庭内教育力の低下や健康問題（齲歯有病率の高さ等）に派生しています。そこで本学の持っている「教育・保健医療」の専門性を駆使して、課題解決を行い、その解決過程において、地域のソーシャルキャピタル（地域の子どもの成長を支える社会力）を発掘・強化し、本学と地域が一体となった「地域子育てのプラットフォーム」を組織することとしました。本学はこのプラットフォームの一員として、教育・保健医療の機能を持った「子育て総合支援施設」を主な活動場所とし、それらの取り組み状況を通して、地域の活性化と「地域と歩みを共にする大学というブランドイメージを醸成」するという互いに Win-Win の関係 (All-Win) 構築 を目指しております（図1：概念図）。

2. 事業の展開

実施は、本部（事業推進室）の下に、ブランディング戦略協議会が4つのチーム（ブランディング戦略室、A調査・研究チーム、B企画・実施チーム、C広報・PRチーム）を統括し、自己点検・評価委員会との連携といった体制により行っております。このうち、「Aチームによる調査」及び「Bチームの企画・実行」のうち、「子育て総合施設」について紹介します。

（1）調査・研究を推進するAチーム

ビジョンを「research with 地域＝地域とともに行う研究」、「research in 地域＝地域の中で行う研究」、「research on 地域＝地域に関して行う研究」、つまり All-Win プランの所以であります。研究目標は、3段階に分け「①長田区における子育て、及び支援に関する現状と課題 ②子育てへの総合的な支援の効果を測定する方法の確立 ③地域子育てプラットフォームを通して取り組まれる総合的な支援の効果を明らかにすることとし、それぞれの学科を超えて自由な発想に基づく調査・研究を目指しました。初期の例として

神戸常盤大学 地域子育てプラットフォームの構築を通じた All-Win プラン

本事業は、子どもの成長を核とするまちづくりを地域と協働して行うものである。そこでは、主に神戸市長田区を対象に、その最たる課題の「子育て支援」について、本学が持てる教育・保健医療の専門力を駆使しながら、その解決策を講ずる。その解決の過程においては、地域のソーシャルキャピタル（地域の子どもたちの成長を支える社会力）を発掘、強化し、もって本学と地域が一体となった『地域子育てプラットフォーム』を組織する。本学は、プラットフォームの一員として、教育・保健医療の機能をもった『子育て総合支援施設』を主な活動場所としながら子育て支援の取り組みを行い、併せてそれらの取り組みの状況と効果を広報・PR することを通して、「地域と歩みを共にする大学」というブランドイメージの醸成を図る。

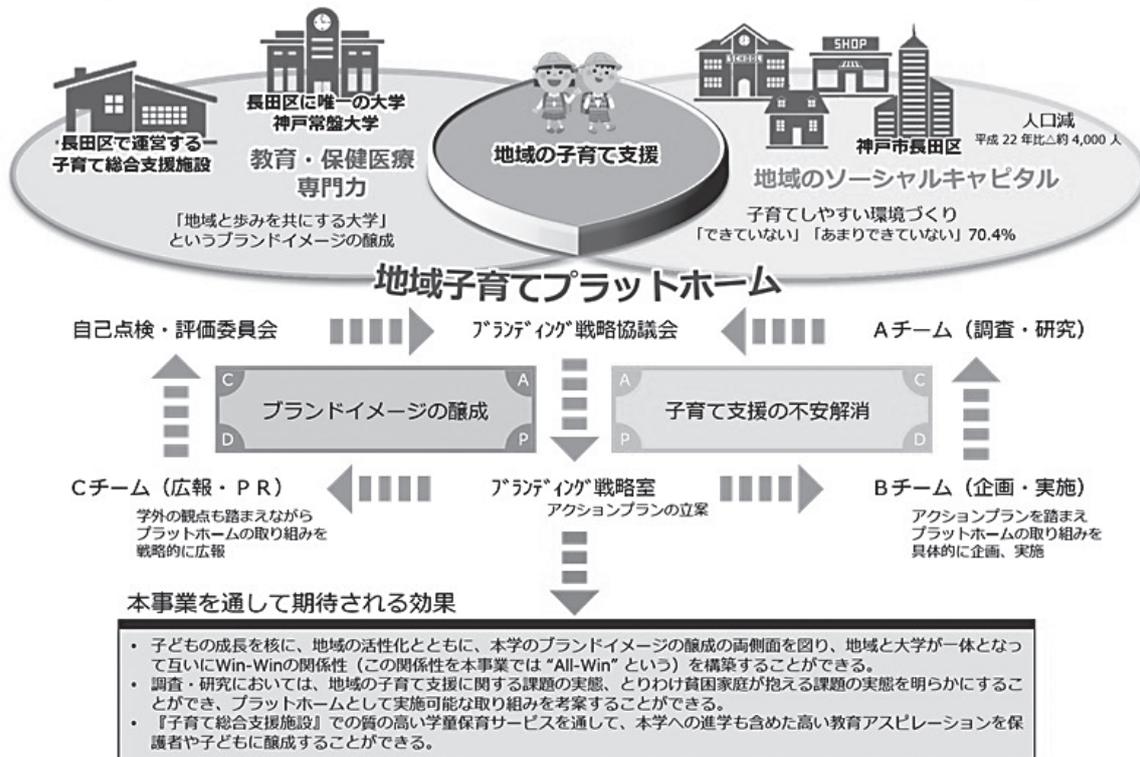


図 1 概念図

「*放課後等における子どもへの多角的支援に関する研究*保育施設における感染症拡大防止と保育者の作業負担軽減に向けたオムツ処理方法の模索*周産期及び子育て・学習におけるアロマの効果的利用」等があげられます。

看護学科の研究取り組みは、事業以前から長田区住民に対する健康相談や指導、さらには「子育て広場ときわんクニヅカ」における育児相談、「まちの保健室活動」等を継続検証するとともに、「地域拠点において看護学科が提供する all generation の健康支援に向けた実践モデルの検討」へと連動させております。具体的な視点としては、子ども支援を中核に、全発達段階に応じた健康相談・指導（育児、病気・事故、アレルギーへの対応他）育児と就業、海外にルーツを持つ母親とその子どもたちの支援、高齢者の健康支援・介護予防等であります。

これらチームの取り組みは、学会や研修会等において中間的成果として公表しております。

(2) 「子育て総合支援施設」の活動状況

この地域子育てプラットフォームの活動と研究拠点となるのが、学園の創立記念日でもある、2018年5月8日にオープンした「子育て総合支援施設 KIT(きつと)」です。「KIT」は、「Kids: こども」、「Inspire: 元気づける」、そして「Tokiwa: トキワ」の頭文字を取って名付けました。

KIT (キット) は、3つのエリアで構成されており、ママ・パパと主に乳幼児が遊ぶ「ときわんクニヅカ」、小学生の学習サポートを行う「てらこや」、地域の方々が自由に出入りできる多文化・多世代交流ゾーン「コティエ」があります。

「ときわんクニヅカ」は、2010年、神戸市からの要請もあり、旧ふたば小学校跡地の神戸市立人材支援センター（現：ふたば学舎）の一角に開設した子育て広場「えん」からスタートしたものです。

「ときわん」は、本学のマスコットであるくときわん>(図2) から貰いました。このくときわん>ですが、本学基盤教育の特徴的な授業の1つである「まな



図2 本学マスコットキャラクター
〈ときワン〉

ぶる▶ときわびと」内で学生たちが作り出したものをベースに出来上がったキャラクターです。KIT開設と同じ年度に神戸市元町6丁目に開設した子育て広場も「ときわんモトロク」の名称で運営を行っています。「ときわんクニヅカ」と「ときわんモトロク」の延べ利用者数は、年間で約2万人にもなります。そんな両施設でママたちに人気なのが、看護学科教員によるアロマ関連の講座。毎回すぐに定員が予約で埋まってしまいます。

「子育て総合支援施設 KIT」は、地域住民の皆さんだけでなく、本学の学生たちにも大きな影響を与えています。学生たちは、授業の中で、またボランティアとして様々な人たち、乳幼児、小学生児童と触れ合うことで、早い段階で実践力が身に付き、いろんなことに気づき、自分の経験値を上げていってくれています。

KITは、地域の方々、パパママ、乳幼児、児童、全ての人たちの夢が『きっと』叶う、そんな場所になっていってくれると思っています。(写真1、2、3)

おわりに

周知の通り、2019年文部科学省は、同事業をめぐる某大学の贈収賄事件後に見直し、計画途中で打ち切ることを決めております。2018年度に採択された本学は、5年計画の中間地点となるべき3年目で、事業が打ち切られることとなりました。

しかしながら財政的支援の有無にかかわらず、この取り組みをきっかけにその成果を見定め、本学の教育・研究のブランド力を高め推進していくことに、変わりはありません。そのために、引き続き「地域と共に歩む大学」として教職員一丸となって邁進していきたいと考えております。



写真1 たらこや風景



写真2 ときワンクニヅカ
〈子育て広場〉



写真3 ときワンクニヅカ
〈紙しばい〉

理事会報告

2019 年度 第 2 回臨時理事会(電磁的記録による)理事会

発信日：2019 年 9 月 10 日

審議事項 選挙管理委員について

大島弓子代表理事が当法人の理事及び監事の全員に対して上記議案について提案書を発した。当該提案につき、2019 年 9 月 17 日までに理事全員から電磁的記録により同意の意思表示を、監事全員から電磁的記録により異議がない旨の意思表示を得たので、一般社団法人日本私立看護系大学協会定款第 41 条の定めに基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

2019 年度 第 3 回定例理事会報告

日時：2019 年 10 月 14 (月)

場所：日本私立看護系大学協会事務局

審議事項

- 1) 私立大学等改革総合支援事業について
河口てる子理事より活動状況の把握と情報収集のため日本私立大学協会と日本私立学校振興・共済事業団を往訪する予定であることが説明された。
- 2) 日本看護学教育評価機構への協力について
大島弓子会長より本協会の協力について、一般財団法人日本看護学教育評価機構へ文書により報告したことの説明があった。長澤正志財務担当理事より国の公益法人指導監督基準を基に 1,740 万円の繰越金を恒常的に保有することを前提とし、受審料の補助金額として 3 案が提示された。アンケートは、執行部で再度検討した後、理事にメールで意見を伺い会長の責任で行うこととなった。
- 3) 規程等の改正について
長澤正志財務担当理事より説明があり、経理規程施行細則第 14 条固定資産の耐用年数表(案)は、原案とおり承認された。入会規程新旧対照表(案)第 2 条第 5 項は、修正し承認された。
- 4) 2020 年度社員総会後の講演テーマと講演者について
執行部で協議し 2020 年 1 月の臨時理事会で決定することとなった。

報告事項

- 1) 文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会(第 4 回)」審議に対する本協会としての意見、実習ガイドライン案への意見について
- 2) 2019 年度事業活動報告(中期)と予算執行状況について
 - ①大学教育委員会
安藤広子理事より今後の課題について、看護学教育の動向を見つつ、次年度の事業活動計画を検討し、研修会開催地域等については早期に通知できるようにしたいと報告された。
 - ②研究活動委員会
島袋香子理事より研究助成採択者の 4 名から変更の申し入れについて承認したと報告された。

③国際交流委員会

小山真理子理事より研修会について、3 名の講師からの切り口の違う講演が好評であったと報告があった。また、協会ホームページの英訳編集集中であると報告があった。

④大学運営・経営委員会

春山早苗理事より、一般社団法人日本看護系大学協議会との合同調査「看護系大学に関する実態調査」と「看護系短期大学に関する実態調査」は実施中であると報告があった。

⑤渉外委員会

河口てる子理事より活動状況の把握と情報収集のため日本私立大学協会と日本私立学校振興・共済事業団を往訪する予定であることが説明され、看護学教育の経費について、大学運営・経営委員会と連携してデータの分析を進めると説明があった。また、Nursing Now の活動状況について報告があった。

⑥広報委員会

波川京子理事よりホームページの改修について報告があり、委員会ページの改修状況が確認された。

- 3) 2019 年度中期決算について、長澤正志財務担当理事より報告があった。
- 4) 研究助成申請者の取り下げについて、島袋香子理事より報告された。
- 5) 2020 年度役員候補者選出選挙について、山口桂子理事より選挙管理委員会スケジュールについての説明があった。
- 6) Nursing Now キャンペーン事業への参画について、河口てる子理事より実行委員会に出席したこととその内容についての報告があった。
- 7) 2019 年度社員総会アンケート結果について、山口桂子理事より報告があった。
- 8) 8 月から 9 月の災害の会員校への対応と被害状況について、山口桂子理事より報告があった。
- 9) 事務局職員の採用について、山口桂子理事より 10 月 1 日付けで牧野友希さんを採用したことの報告があった。
- 10) 次回理事会について、1 月 26 日(日曜日)13 時から 16 時まで第 3 回臨時理事会を開催することを確認した。

2019 年度 第 3 回臨時理事会

日時：2020 年 1 月 26 日(日)

場所：日本私立看護系大学協会事務局

審議事項

- 1) 選挙について、選挙管理委員会からの報告と審議
出野慶子選挙管理委員長より 2020 年度選挙管理委員一覧に基づき選挙管理委員の紹介があった。また、第 1 回選挙管理委員会議事録、2020 年度役員候補者選出選挙スケジュールに基づき説明があった。
大島弓子理事より役員任期の課題について説明があり、役員任期に関することは、2017 年度の理事会審議経過の経緯等からすると、今後定款を変更して役員候補者選出規程に盛り込むか再度検討する必要が生じる場合もある。その時は、選挙実施の前年度の理事会と社員総会において審議、決定しておく必要があると説明された。

- 2) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力に向けたアンケート案について、山口桂子理事より説明があり、2月上旬に実施することとなった。
- 3) 2020年度重点事業草案について
大島弓子会長より説明があり、次回理事会において継続審議することとなった。
- 4) 2020年度事業活動計画案について
 - (1) 大学教育委員会
安藤広子理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。
 - (2) 研究活動委員会
島袋香子理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。
 - (3) 大学運営・経営委員会
春山早苗理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。
 - (4) 渉外委員会
河口てる子理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。
 - (5) 広報委員会
波川京子理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。
- 5) 規程等の見直しについて
長澤正志理事より一般社団法人日本私立看護系大学協会役員候補者選出規程(案)新旧対照表、一般社団法人日本私立看護系大学協会選挙管理委員会規程(案)新旧対照表に基づき説明があり、原案どおり承認された。
- 6) 2020年度社員総会付帯事業(講演会)の講演者について
河口てる子理事を中心に企画等の詳細を検討することとなった。

報告事項

- 1) 委員会報告
 - (1) 大学教育委員会
三橋睦子理事より報告があった。新任教員のための研修会の参加者は約70名、カリキュラムについての研修会は約170名の参加であり、昨年度からの課題であったグループワークへの積極的な参加についても事前に調整することによって改善されたと報告された。
 - (2) 研究活動委員会
島袋香子理事より報告があった。以前は研究助成の研究成果報告に不十分なものがあったので懸念していたが、今年度からは研究指導者を有していることを募集の要件としており、研究成果報告会へ学部長などの研究指導者が出席されておりしっかりしてきて安心していると説明があった。
 - (3) 国際交流委員会
大島弓子会長より10月6日に開催した研修会は経験年数が多い方が多く参加されており、満足度が高い研修会であったと報告があった。
 - (4) 大学運営・経営委員会
春山早苗理事より報告があった。研修会は33校53名の参加で好評であったことが報告された。実態調査については提出が終わり、1月28日にJANPUと合同会議があると報告された。
 - (5) 渉外委員会
河口てる子理事より日本私立大学協会と日本私立学校振興・共済事業団に訪問し、理事長や理事のそれぞれの考えを聞き、小規模校について話をしたと報告された。また、日本学術会議等については情報収集をしていると報告された。
 - (6) 広報委員会
波川京子理事より5月と11月に会報を発刊し、ホームページの委員会活動ページを新設したと報告された。

- 2) 私立大学等改革総合支援事業について
河口てる子理事より日本私立大学協会と日本私立学校振興・共済事業団に訪問し、それぞれの方向性や理事長の考えを聞き、小規模校について話をしたと報告され、引き続き情報交換をしていくと報告された。
- 3) Nursing Now キャンペーン事業について
大島弓子理事よりNursing Now キャンペーンの講演や分科会の計画について説明された。また、キャンペーングッズについての案内がされた。
- 4) ホームページについて
次年度はホームページの構成やよりタイムリーな更新などを目指していくために広報委員会委員の増員などを見込み予算化していくこととなった。
- 5) 会長表彰について
山口桂子理事より会長表彰の文章の改正について説明があり、修正した。また規程の改正については次年度に向けて継続審議することとなった。
- 6) 文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会(第3回)」における協会としての意見、実習ガイドライン案への意見について、大島弓子理事より説明があった。
- 7) 2020年度理事会日程について
理事会日程調整表に基づき理事会日程について調整した。

2019年度 第4回定例理事会(電磁的記録による)理事会

発信日：2020年3月26日

報告事項

1. 新型コロナウイルスに関する対応について
2. 2020年度役員候補者選出選挙について
3. 2020年度社員総会について
4. 2020年度重点事業(案)について
5. 2020年度事業活動案について
6. 2020年度予算案について
7. 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力体制の方針について
8. Nursing Now キャンペーン事業について
9. 2020年度理事会日程について



事務局からのお知らせ

2020 年度開設 私立看護系大学

| | |
|-----------|---------------------|
| 湘南鎌倉医療大学 | 看護学部看護学科 (100 名) |
| 第一薬科大学 | 看護学部看護学科 (80 名) |
| 東京医療保健大学 | 立川看護学部看護学科 (100 名) |
| 東京医療保健大学 | 東が丘看護学部看護学科 (100 名) |
| 日本赤十字看護大学 | さいたま看護学部看護学科 (80 名) |
| | (定員) (50 音順) |

2020 年度社員総会・講演会

- 社員総会 [検討中]
2020 年 7 月 10 日 (金) 午前
- 講演会「私学助成の補助金を獲得していくためにはどんなことが重要か (仮)」
2020 年 7 月 10 日 (金) 午後
アルカディア市ヶ谷 (私学会館) 3 階 富士の間
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

2020 年度研修会のお知らせ

- 大学教育委員会 [検討中]
テーマ I 「大学新任教員のための研修会 2020」
(神戸会場)
2020 年 8 月 30 日 (日) 10:20 ~ 16:00 (予定)
TKP 神戸三宮カンファレンスセンター
〒651-0087 兵庫県神戸市中央区御幸通 6 丁目 1-12
三宮ビル東館 5 階

(仙台会場)

2020 年 12 月 20 日 (日) 10:20 ~ 16:00 (予定)
東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス
〒983-8511 宮城県仙台市宮城野区榴岡 2 丁目 5-26
テーマ II 「シミュレーション教育に関する研修会 (仮)」

2021 年 1 月 11 日 (月) 10:00 ~ 16:00 (予定)
アルカディア市ヶ谷 (私学会館)
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

○研究活動委員会 [検討中]

第 1 回研究セミナー
2020 年 9 月 19 日 (土) 10:00 ~ 16:00 (予定)
アルカディア市ヶ谷 (私学会館)
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25
第 2 回研究セミナー
2021 年 2 月 13 日 (土) 10:00 ~ 16:00 (予定)
関西地区 (予定)

○国際交流委員会 [検討中]

「新型コロナウイルス：パンデミックその時、国際交流で生じた問題と対応」
2020 年 10 月から 11 月頃開催 (予定)
関東地区 (予定)

○大学運営・経営委員会 [検討中]

「広報に活用する IR (仮)」
2020 年 10 月 26 日 (月) 13:30 ~ 16:30 (予定)
アルカディア市ヶ谷 (私学会館)
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

編集後記

2018 年から 2019 年に発生した自然災害は、発生直後から、地域の絆を強化し、つながりを大事にしてきました。現在は、新型コロナウイルス (COVID-19) が全世界に感染拡大しています。各国は総力をあげて、感染防止、生命の救助に医療、経済政策等、日々全力を投じています。

この状況下、新学期を迎えましたが、会員校の皆様には、COVID-19 感染予防対策で日々変わる状況対応に忙殺されている日々だと思われます。授業や演習等で、密閉空間、密集場所、密接場面がどうしても多くなることから、授業

開始の延期や遠隔授業の開始等、新たな取り組みにもご尽力されていると存じます。同時に、感染者発生時の対応、実習受け入れ停止時の実習場所の確保、国家試験受験資格を満たす授業時間・内容の担保等、地域格差の状況も踏まえ、予測を超えた様々な課題が山積し、また、日々新たに増えてきています。課題解決に奔走する会員の皆様のご健康を願うとともに、COVID-19 感染症の一日も早い終息を願うばかりです。

日本私立看護系大学協会会報 第 43 号

発行者：一般社団法人 日本私立看護系大学協会 <https://www.spcnj.jp/>
〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-6-10 近清堂ビル 6 階
TEL 03-6261-2071 / FAX 03-6261-2072 E-mail jpnucs@jade.dti.ne.jp

編集責任者：波川京子
印刷所 株式会社 報光社